

正誤表

本書におきまして下記のとおり記載内容に誤りがありました。訂正してお詫びいたします。

●p.806 左段 20 行目

誤	正
5. 造血幹細胞移植療法	→ 5. 自家造血幹細胞移植療法

●p.1021 右段

誤	正
下線部 4 箇所「鉛」	→ 「銅」

(3) 鉛欠乏：鉛欠乏は通常の食事をしているヒトでは起こり得ない病態だが、胃切除、長期非経口栄養、腸管栄養などを受けている患者で見られる^{30,31)}。鉄芽球性貧血が生ずる機序はセルロプラスミン（鉛結合蛋白で、細胞内の Fe^{2+} を Fe^{3+} に変換し細胞外トランスフェリンに受け渡す）の欠乏で造血巣への鉄供給が低下することに加えてミトコンドリアの中で Fe^{2+} の Fe^{3+} への変換がスムーズにいかないためヘムへの鉄挿入が低下し、sideroblasts を生ずる。鉛酵素である cytochrome oxidase 活性の低下も造血そのものを抑制する原因となり白血球減少を引き起こす。重症例では脱髄による中枢神経症状を呈する。

●p.1579 右段 12 行目

誤	正
angioimmunobalastic	→ angioimmunoblastic

●p.1984 図Ⅶ-14 の A (患者血漿：正常血漿)

誤	正
1:1	→ 1:0